

NEWSWAVE

新しい時代を切り拓く実践経営情報紙

発行
(株)常陽経営コンサルタンツ
〒973-8408
福島県いわき市内郷高坂町砂子田94 番地
TEL0246-27-9110 FAX0246-27-9118

2013 年度査察の脱税総額は 145 億円 1974 年度以来 39 年ぶりの低水準

いわゆるマルサと呼ばれる査察は、脱税でも特に大口・悪質なものが強制調査され検察当局に告発されて刑事罰の対象となる。国税庁が公表した 2013 年度査察白書によると、査察で摘発した脱税事件は前年度より 5 件少ない 185 件、脱税総額は前年度を 29.4% 下回る約 145 億円と 1974 年度 (約 123 億円) 以来 39 年ぶりの低水準だった。これは、脱税額 3 億円以上の大口事案が前年度を 7 件下回る 4 件と大幅に減少したことなどが要因。

今年 3 月までの 1 年間 (2013 年度) に、全国の国税局が査察に着手した件数は 185 件と、42 年ぶりの低水準だった前年度をさらに 5 件下回った。継続事案を含む 185 件 (前年度 191 件)

を処理 (検察庁への告発の可否を最終的に判断) し、うち 63.8% (同 67.5%) に当たる 118 件 (同 129 件) を検察庁に告発した。この告発率 63.8% は、前年度から 3.7 ポイント減少し、38 年ぶりの低水準だった 2011 年度 (61.9%) に次ぐ低い割合だった。

告発事件のうち、脱税額が 3 億円以上のものは 4 件にとどまり、脱税額が 5 億円以上は同 1 件少ない 2 件だった。近年、脱税額 3 億円以上の大型事案が減少傾向にあり、2013 年度の脱税総額 145 億円は、ピークの 1988 年度 (714 億円) の約 20% にまで減少している。告発分の脱税総額は前年度を約 58 億円下回る約 117 億円、1 件当たり平均の脱税額は同 3600 万円減の 9900 万円と、1978 年度 (9500 万円) 以来 35 年ぶりに 1 億円を下回った。

ベンチャー企業、大手と連携進む 新規株式公開数、5年で3倍増

新製品開発で事業を起こす「ベンチャー企業」の株式公開数が増え続け、ここ 5 年間で 3 倍近くの 54 社になっている (経産省調べ)。

13~14 年型ベンチャーには、過去と違う大きな特徴がある。アイデア商品化に不可欠な IT 技術を駆使している点、大手企業に関心を寄せ提携しているという点だ。逆に言えば、新興企業が長所 (アイデアやスピード) と弱点 (資金、市場開発、信用) を補完したい狙いと、大手には新規事業の手詰まり感で焦りもある、新商品の自社開発には時間とコストもかかる…そこでベンチャー企業の手助けを求めたいという両者の思惑が一致したのだ。

そのベンチャーと大手とのマッチングが、東

京・新宿で朝 7 時、ベンチャー企業によるプレゼンテーション「Morning Pitch」 (モーニングピッチ) で真剣勝負を繰り広げている。毎週、メーカー、商社から金融機関まで、およそ 60 社が参加し、毎週 5 つのベンチャーが、自社の技術や商品売り込む。マッチングを仕掛けるのは複数の証券会社というのも新しく、このような「見合いの場」は、個人投資家 (エンジェル) も含めた VC (ベンチャーキャピタル) の応援が当たり前となって、ベンチャー企業家のやる気をいっそう刺激している。その好例が魚の注文システムを開発した「八面六臂」 (東京都) というベンチャーで、1 億 5000 万円の資金を調達し価値あるアイデアを証明した。